

平成27年度 第2回鶴岡市健康なまちづくり推進協議会（会議録・概要）

○ 日 時 平成28年2月3日(水) 午前9時30分～午前11時25分

○ 会 場 鶴岡市総合保健福祉センター にこ♡ふる 3階大会議室

○ 次 第 (1) 平成28年度 新規・重点事業等について
(2) 保健行動計画関係の重点事業等の取組みについて
(3) グループワーク

- ・テーマ1:スマートランチ作戦について
- ・テーマ2:ヘルスアップセミナーについて

○ 出席委員

鈴木伸男（会長）、千田洋子（副会長）、荻原聡、小池正純、原田靖子、
（代理）武田世津、七森玲子、三浦直人、板垣葉子、齋藤邦夫、佐藤しおり、
五十嵐雄次郎、荒澤和子、小林達夫、

○ 欠席委員

曾野部由香里、梅木繁則、秋山美紀、七森玲子

○ アドバイザー：共立女子大学教授 川久保清

○ 市側出席職員

健康福祉部長相澤康夫、健康福祉部健康課長原田真弓、藤島庁舎市民福祉課長叶野
明美、櫛引庁舎市民福祉課長山口弘男、朝日庁舎市民福祉課長佐藤美鈴、温海庁舎
市民福祉課長石塚みさ、健康課課長補佐菅原正一、同小林まゆみ、成人保健主査増
田富美子、同 五十嵐信子、同 山口えみ、同 上野真勝、母子保健主査金内節子、
同岡部奈緒子、高齢保健主査碓氷ひろ子、保健総務係長小林学

○ 公開・非公開の別 公開

○ 傍聴者の人数 なし

1 開 会

事務局（菅原）

定刻になりましたので、只今から平成27年度第2回鶴岡市健康なまちづくり推進協議会を開会いたします。

本日の会議には、当協議会のアドバイザーである共立女子大学教授の川久保清先生にも出席いただきアドバイスをいただきます。

本日の協議会には、曾野部委員、梅木委員、秋山委員、七森委員から欠席になる旨の連絡をいただいております。

また、庄内保健所長の代理として、庄内保健所の武田地域保健主幹から出席いただいております。

それでは、はじめに鈴木会長からご挨拶をお願いしたいと思います。

鈴木会長

皆様には、それぞれにお忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。

また、アドバイザーの川久保先生には、昨晚遠路東京からお越しをいただき午前中は、この会議にご出席いただいて、午後からは特定健診・特定保健指導に係る研修会の講師をされて、今日の夕方の飛行機で帰られるということで、本当にありがとうございます。

最近テレビで私にとっては嬉しいことがありまして、NHK「ドクターG」というテレビ番組が木曜日の夜 10 時からありますが、見てますでしょうか。実は研修医と専門医の人だけで大変難しい病気を当てるという番組で、長続きしてますし私も興味深く見ているのですが、一般的にも受けている番組だと思います。

先週の木曜日に一人のドクターが庄内病院の研修医で、女医さんだったのですがその先生が大変難しい病気を当てたものですから、私は大変うれしく思いました。その後、新潟の友達から庄内病院も大したものだと、おまけに大変美人だと言われまして、誇らしく思いました。庄内病院はあまり評判が良くないとの話もありましたが、そんな中でのニュースだったものですから、私は大変うれしくまた誇らしく思ったところでもあります。庄内病院については、みなさんからは今後とも温かく見守っていただきたいということをお願いしまして、私の挨拶とさせていただきます。

それでは、宜しくお願いいたします。

事務局（菅原）

それではここで、本日の配布資料の確認をさせていただきます。

－配布資料の確認－

それでは次第の3に移らせていただきます。

会議の議長については、要綱に基づいて鈴木会長をお願いいたします。

鈴木会長

それでは私が暫時の間、座長を務めさせていただきます。

(1)の平成28年度 新規・重点事業について事務局から説明をお願いします。

－ 事務局（原田） 資料1 を説明 －

鈴木会長

はい、ありがとうございます。(2)の保健行動計画の重点事業等の取組みについては、本日のグループワークのテーマ説明にもなるようですので、一旦区切って、今説明をいただいた(1)の新規・重点事業等の取組みについて、何か質問のある方おられましたらお願いします。

無ければ、続けて(2)の保健行動計画関係の重点事業等の取組みについて説明をお願いします。

— 事務局(増田) 資料2、資料3を説明 —

鈴木会長

説明事項については、以上のようなのですが只今の説明に関して何か質問ある方は挙手をお願いしたいと思います。

それでは私から2点程質問いたします。食事に関する事ですが、スマートイートが3店舗をお願いして進めているということですが、差し支えなかったらその3店舗というのはどこの店になりますか。

事務局(増田)

大人(だいはち)食堂さんとおぼこ食堂さん、それと市役所の地下食堂です。実は荘内病院の方にも働きかけているのですが、なかなか「うん」とは言っていない状況です。

鈴木会長

なぜ、その質問をしたかということ、アルケッチャーノの食事が野菜が多いという事で聞いていますが、今のところアルケッチャーノはその3店舗には入っていないのですね。

もう一点は平均体重減少が夜コースの方が、日中コースより多いということで、シーズンの影響があるということですが、具体的にはシーズンの影響というのはどのような事が減少の原因になっていますか。

事務局(増田)

やはり、春から夏は活動しやすい時期で運動も取り組みやすい時期だと思います。秋からですと季節的にどんどん寒くなっていきますので、汗もかきにくいような時期に突入していくという事で、なかなか同じように運動してもその効果の出現状況は違うのかなと思います。

鈴木会長

出席率は良くないですか。

事務局(増田)

そんな事はなく同じ状況です。

鈴木会長

トレーニングの内容も同じなんですよ。やはり寒いと動きが良くないということですね。

小林委員

今日説明を聞くまで、なぜ野菜を最初に食べるのが良いのか意味が良く分からなかったのですが、今日初めて分かって、スマートランチなんかは確かに良い事だと思います。高齢者用のそういったものがないものかなとも思いました。鶴岡市老人クラブは会員だけで全市合わせると8千人おられます。年2回、健康増進に関する研修会をやっているのですが、健康な老人を目指して一生懸命やっておりますので、医療費の削減もなりますので、できればこういう資料を高齢者用に準備できればお願いしたい。今月の25日も研修会がありますので、可能であればこういった資料を作ってもらって、高齢者もこういった食事をして健康を維持するんだという体

制にお力を貸していただければと思います。

事務局(増田)

大変うれしいご意見をいただきましたので、栄養士とも調整をしまして、基本的には変わらないと思いますけども、高齢者の場合この内容で良いのかどうか調整させていただきます。

荻原委員

ヘルスアップセミナーの事でお聞きしたいのですが、参加者の推移ということで、先ほど説明もありましたけども、平成 26 年から参加者が増えてきたということで、成果課題のところを見ますとダイレクトメールの工夫で参加者が増えたんじゃないかと分析をされているようですが、ただ単にダイレクトメールだけで人が増えるという効果があるのかどうか、あるいはもう少し積極的に市の方で声かけをしたとか、そういったことはないのでしょうか。

事務局(増田)

私も事業の担当の者と確認をしたり、準備をしたりしたのですが、この増えた頃から「ぜひあなたに参加してもらいたい」というようなメッセージをプラスした勧奨をスタートしたところなんです。そこから参加する対象者が増えてきたようなことが事業の担当者からも言われていまして、そうかなと感じていました。それから以前は春コースを行う前に募集、秋コースを行う前に募集と分けて募集をしていたのですが、現在は一括募集で、その時期が前年度末の早い時期から周知、啓発をスタートしたということで、その方の 1 年間の計画を立てやすい時期にご案内ができたのかなと思っております。そんなことも含めて参加者が増えてきたのかなと捉えております。

荻原委員

実は介護の方のセミナー参加者募集にあたり、なかなか人が集まらないというようなことがあったので、参考にさせていただきます。それからスマートランチ作戦は、男性の方を対象になさっているのでしょうか。

事務局(増田)

主に男性だけだったのですが、最近は男性だけに限定しますと、お昼の時間帯に参加してもらえないものなので、いろんな地域会場でやっておりますけども、そこに来れる働き盛りの男性が少なかったりしますので、若干女性も入れながら少し広げて実施しております。しかし、趣旨としては働き盛りの男性に向けたセミナーということでスタートしております。

荻原委員

良い取り組みだと思うんですけど、ただ男性だけだと、例えばそこに行ってメニューを教わって一食べて帰ってきても、実際、家庭に帰って自分で作るかとなるとそれは難しいので。奥さんが作ってくれるのであれば別ですけど、ちょっと思ったのは、時間がなければしょうがないですが、時間があるならば作るという体験をして、実際食べるという事ができたらもっと家庭に帰ってきてからも繋がっていくのかなと、そんな印象を持ちました。

鈴木会長

はい、ありがとうございました。4の協議については、2つのテーマについて3つのグループに分かれて、それぞれディスカッションしてもらうことにして、その進め方の説明については事務局からお願いします。

事務局（小林まゆみ）

健康課の小林です。

それでは、これより、さきほど事務局から説明いたしました2つの重点事業について、みなさまと協議いただきたいと思います。

進め方について説明させていただきます。

今回も、委員のみなさま全員声が出せるように、グループワークの形式をとらせていただきました。お手元に配布いたしました本日差し替えの「グループワークについて」をご覧ください。

これから30分間、2つのテーマについて協議いただきますが、「話し合いのポイント」として、いくつか挙げております。これに限らず深めていただいて結構ですが、共通することとして、それぞれの事業の現状や課題、目指すところを皆さんと確認できればと思います。

また、みな様が所属する組織や職場でできることはないかなど、たくさんのご意見を頂戴したいと思います。

各グループの進行と記録は事務局で入ります。

それでは、よろしくをお願いします。

（3グループに分かれ グループワーク開始 ―約30分―）

鈴木会長

それでは、各グループのディスカッションも終わったと思いますので、各グループの発表者の方からご報告をお願いしたいと思います。

第1グループ報告（金内）

1グループです。

はじめに、スマートランチ関係についてです。「働き盛りだけでなく、高齢者についても家庭の中で伝達しやすいようにチラシを作成していただき、老ク連の研修会で配布したい。」という先ほどの小林さんの発言や、「食事や運動が大事なのはわかるが、最近はこちらの健康を害している方々が周囲にも多くおり、こちらの健康づくりにも注目している。県立こころの医療センターが移転したことにより、通院しづらくなっている人がいるのではないかと、通院が途絶えている人のフォローができていないか心配している。」という発言もありました。また、「食事・運動・こころの健康づくり等、健康づくりをすすめるためには、コミュニティを活性化していくことが大事だ」という声もありました。

それから、「市の食の現状を聞き、改めて子どもの時からの食生活が大事かを再確

認した。現場でも小学生のうちから正しい食事を身につけさせたい。三度の食事のことなので、家庭との連携が必要。難しい現状もあるが、親子でのスマートランチ作戦なども良いと思った。」という発言がありました。「大人になっても子どもの頃の習慣が残ることもあるので、子どもの食事は基本だ。」との声も出ました。

次に、ヘルスアップセミナーの関係ですが、「セミナー以外でも、コミセン等で運動の事業を実施したり、保健推進員会で勉強会をしたり、町内会の婦人部で介護予防体操など、地域でも運動を実施している。働き盛りの若い人から興味を持ってもらうためには、町内会の子ども会の活動や夏祭りなどの行事をきっかけにするのもよいかもしれない。」などの意見がでています。

また、子ども達の運動習慣が少なくなっていることから、親子で体幹チェックやストレッチなどの学習をした。親子で学習の場を持つとそれぞれ興味を持ちやすいように思う。生活が便利になったことで子ども達の体がしっかりできていない現状があると思うので、運動や体づくりについても子どもからの取り組みが大事だ。」という意見がありました。

また、「核家族が増えてきているので、祖父母から郷土食について聞く機会が減っている。また、スーパーで惣菜を買う方が時間や経費の節約になったりするので、家庭の味を持ち寄る場も少なくなっている。日本人らしい、庄内人らしい、鶴岡らしい食事を子ども達に伝えていかなければならない。」という発言もありました。

以上です。

第2グループ報告(岡部)

第2グループです。

テーマ①「スマートランチ作戦について」の主な発言としては、食改の活動として参加したが、鶴岡地域以外の地域は事業所等の協力が得やすく、にこふる会場は企業とのタイアップが難しかった。男性をターゲットとしているが、家庭で実際に食を担う女性からも学んでほしい。これから作戦を広めて行くことを考えても女性を巻き込む必要があると感じているという発言。

水を飲み、20分かけて食べるというような今までと違うことを家庭で実行するのはある意味大変なこと、それを実行し継続するためには女性の理解、サポートは重要だと思うという発言。

協力店舗が少ないと感じた。自分の経験上からも実行するには、実際に体験すること、まずスマートメニューを食べることがきっかけになると思う。実際に飲食店にメニューを出すことをお願いするのはもっと困難になると思うので、市役所やにこ・ふるの食堂ですとか、弁当にして「スマートランチ弁当」を季節でメニューを変えながら提供できないか。市役所で食堂のPRも兼ねて、役所内にポスターやレシピを入れたチラシを置くなど、お金があまりかからない方法でPRできる方法があるのではという発言。

男性に限らず、年代を広げたこうした取り組みは必要と感じる。

減塩の今の課題は、味噌汁よりもおかず。汁は薄めで、おかずが濃くなっている。

この会議でも、ランチスタディの体験をしてみてもどうか。
等の発言もありました。

テーマ②「ヘルスアップセミナーについて」の主な発言を紹介すると

「喜楽喜楽」は約40名で活動をしている。自分たちにとってもリバウンドしないことが大切だと思っている。サポーターの集いなどで学びを続けながら、ヘルスアップセミナーにも協力している。

運動継続のための自主活動グループ「イーナ会」などもある。「イーナ会」に参加している方は意識が高く、様々なスポーツイベントにも参加している姿を見かける。

運動継続していけるための後押しになるような情報があると良いと思う。例えばサポーター情報でも、自主活動グループが、いつ、どこで、どんな活動をしているかを発信してもらえると、初期のセミナー修了者にとってもありがたい情報だと思う。

スマートランチ作戦にも言えることだが、こうした取組みは、知っている人は知っているが、知らない人は全く知らない。参加につながるような情報発信の工夫が必要だと思う、というものなどがありました。

第3グループ報告（確氷）

スマートランチ作戦については、「この事業があることを知らなかったの、啓発が少ないのではないかと、もっと職場などに普及していくことが必要ではないか」という発言がありました。

昼休み時間を利用し、調理・学習しながら食事をするといった内容をテレビで見ただけからは、「自分で調理することで塩の量などを体験を通してわかる。そのような形で、男性でも簡単に調理でき、楽しみを持ちながら身につけ、家庭でも実践できるような形にすることで参加者の満足度アップにつながるのではないかと」また、「ランチでなく、スマートディナーとすれば男性だけでなく、奥さんも一緒に参加することになり、楽しく学べる形になるのではないかと」いった意見がありました。

「スマートイートのチラシは、とても良く作られているので、多くの人に見てほしいので、地域事業の際に活用したい」と保健推進員としても活動している方から要望がありました。「このような事業に参加するまではどうしても引っ込み思案になりがち、チラシの工夫は大事なことです。ポスターサイズにして公民館等に掲示したらどうか」といったご意見もいただきました。

「食材の分量などはわかるが、カロリーがわからないので、簡単にカロリーがわかるようなものがあると良い」ということも出されました。

働き盛り男性の健康課題があることから、このような事業は、男性の健康意識が高まり、健康への関心を持つ場、健康づくりのきっかけになっていると言える。作り方の実践も加えれば、グループが育成され、そして男性だけでなくそれに女性も加わり、高齢者も加わるような形となれば良いというまとめになりました。

ヘルスアップセミナーについては、「とても良い事業なので若い年代だけでなく高齢者も対象とすると良いのではないかと」言ったご意見もありましたが、アドバイザ

一の川久保先生より、「この事業は、体重を減らし生活習慣を改善して健康状態を良くすることがねらい」であること、また、「高齢者を対象とするのであれば、別の形で始めなければならない」と助言をいただきました。

「60歳代の方の参加者が多いのは、退職後生活にゆとりがある人が参加している状況が伺われるが、この年代の方にとっては、有効な場になっているのではないか」といったことや「参加者の40歳代と60歳代では、男性においては運動の質が変わってくるのではないか」ということが出されました。

参加者数の男女比が知りたいという質問もありました。

鈴木会長

ありがとうございました。3つのグループの報告を聞いて、みなさん何か聞いておきたいと言う方、いらっしゃいますか。

委員

ヘルスアップの参加者の状況は男性の方が少ないですね。

佐藤委員

今、3グループでも話ありましたが、運動教室等に参加しているのは、断然女性が多いです。

年齢が違うタイプが違う人の運動指導の内容については、同じメニューをみんなで作ってもらうには無理があるので、ここはウォーキング位で落としてもいいですよと言ったり、体力のある人はジョギング位の運動量でいいですよといった感じで、同じメニューの中でも運動量の強度を変えるようにしています。参加者の方たちも、それで自分に合わせた運動になっている、負担の少ないようになっていると思います。

事務局(増田)

男女比の事についてありましたので、女性が圧倒的に多いと言うのは、今、おっしゃっていただきましたが、大体、男性は1割から2割位の参加状況です。まったく男性がいないというコースも今までありましたが、これまでの状況では1割から2割位です。

鈴木会長

今日は、アドバイザーとして川久保教授にも、ご出席いただいておりますので、協議の方は、一旦閉じて私の進行役も事務局へお返ししますが、本日のテーマや皆様のご意見等に関することについて、川久保先生から総括的なお話をいただきたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

川久保教授

鶴岡市で行っている2つの事業について紹介ありましたので、私もこの2つの事業について少しコメントさせていただきます。

まず「スマートランチ作戦」については、平成25年からやっているようですが、私は初めて見させていただいたかも知れませんが、大変スマートな事業名というか鶴岡市にしてはスマートだなという印象です。それと「健康男子通信」の中で健康優良男子という言葉を使っていて、私位の世代ですと健康優良児と言って、小学校の健康優良児の表彰制度を思い出しますが、私の頃には健康優良児というのは、

どういふ子どもが優良児として表彰されるかという、要するに太っている子どもですね。太っている子どもが健康優良児だったという時代に、私は育ちました。私なんかは食べる物もちゃんと食べてなかったの、残念ながら健康優良児には選ばれなかった。私は和歌山の田舎で育ちましたが、当時あまり食べるものは豊富でなかったですね。健康優良児に選ばれたのは寿司屋の息子でした。そういうのを見ると時代が変わって健康優良男子とはなんぞやということで、随分変わったなという感想です。

「スマートランチ作戦」の課題は、どういふふうに波及させていくかということですが、先ほど来グループワークの中でいろいろ出ましたので、そういったことどういふふうに波及させていくかということが、これからの課題だと思いますので、それを目標に進めていただければと思います。

「スマートメニュー」については、今、健康食というのが流行っている時代になってきて、東京のタニタが、体重計のメーカーですがタニタ食堂というのを作って、そこで食事やお弁当を出していて、タニタ食堂なんかはすごい人気で、なかなか入れません。そこでは、お弁当も売っているのですが女房が買ってききましたが、感想を言えば、高くて量が少なく、そんなに美味しいものでもない。健康なメニューというのは高くていいんだと。量が少なく減塩で、そんなに美味しいものを食べているという感じはしない。ただ、そういうものにお金をたくさん払うという時代になってきています。そういう意味でこの「スマートメニュー」のスマートランチでも500円を徴収しているようですが。

うちの大学は、皇居の近くにあるのですが、皇居を走る人が結構いまして、そういう人が利用する鹿屋アスリートショップ・食堂が出来たんですね、鹿屋とは九州の鹿屋体育大学で、アスリートの食堂ということで、ここもヘルシーランチを出しているんですが、1,000円位で食べてきましたけど、先ほどのヘルシーメニューみたいな感じで、減塩で野菜が多いというコンセプトで作っているの、スマートメニューというのはそんなに難しいものではないなと思っています。

あとはどういふふうに普及させて行くかということですが、先ほど来色々発言ありましたが、お惣菜屋さんとかランチを提供するお店に普及させるかということは今後進めていただければいいのかなと思います。あとは男性が作るという話もありましたので、そういう面も取り入れていただければと思います。

2番目の「ヘルスアップセミナー」については、五十嵐さんが会長を務める喜楽喜楽といった健康づくりサポーターの情報誌も拝見しましたか、大変懐かしく思っておりますけど随分昔から携わらせていただきました。

このヘルスアップセミナーというものは、割と良かったコンセプトと言うのは、体重を減らすと健康度が良くなる人を集めてきて実施しているというところ。体重を減らすと健康度が良くなる人を集めて、体重を減らすという目標で、食事と運動を指導するという形でやってきました。

この体重を減らすという目標と併せて、体重を減らせる人が集まってきているんですね。痩せた人はあまり参加できない。それから高齢の人はあまり痩せる必要が

ありませんから、高齢の人とか痩せている人は参加できないセミナーです。体重を減らすという目的でしている良い点は、体重は簡単に量れますから、自分の成果をすぐに見ることができる。結果がすぐに見える。だから、ちょっとやってみると体重が減ってきますから、これだけやればこれだけ効果があるんだということが出来ます。ですから、みんなやる気が出てまた続けて行ける。そしてその結果がまた出るというメリットがあるんですね。体重以外でも健康診断とうまく組み合わせると、結果として、これだけ改善したと、すぐ見えるというメリットがあるんですね。

今後、セミナーとして糖尿病予防セミナーも実施するという話も先ほどありましたけど、その糖尿病予防セミナーということで考えると、必ずしも太っている人ばかりが集まってくる訳ではないですよ。それから、結果の指標が体重を減らせばいいものでもないの、体重を見て行くという形は利用できないので、糖尿病予防セミナーをやるのであれば、また、結果がすぐ見えるような形でやっていくのであれば、血液検査とかそういうものでしかないのかなと思っています。

今後、このヘルスアップセミナーをどう発展させていくかという事ですので、最初のコンセプトであった体重が太っている人を体重が痩せれば、健康度が良くなるんだということを少し変えていくしかないのかなと思っています。そうすると、例えば高齢者を対象にするのであれば、介護予防のコンセプトになりますから、運動が中心のセミナーで少しでも活動能力を高めるような形で、結果が見えるような形にしていく必要があるのかなと思います。

今までのヘルスアップセミナーの形では、どうしても体重を減らすことで割と結果が見えて私も評価しやすかったんですが、今後は介護予防とか糖尿病予防とか、どういうふうに結果を見て行くのかなということに私も応えていかなければならない状況です。

元々、こういうことをやろうとなった背景には生活習慣病を改善しようという、例えばコレステロール値を下げようとか血圧を下げよう、血糖値を良くしようとか生活習慣病を良くしようという健康づくり運動というのは、ずっとやってきた訳ですが、運動をやって食事もよくしてコレステロールを下げようとするが、本当にコレステロールが下がっているかを見るには、大分時間がかかりますよね。健診をしなければ分からない部分もあるので、なかなか結果が見えない。それなら体重という結果が見やすい指標で、体重が減ったら、その結果としてコレステロールが下がるということが目に見えてくるということなので、体重を指標にしたセミナーが始まったという経緯があります。そういうこともご理解いただいて、今後の新しい展開を考えていただければと思っています。

鈴木会長

川久保先生からは大変分かりやすく説明をいただきました。ありがとうございます。私からも今日の感想を一言申し上げたいと思います。今日は野菜の摂取、食事制限という話がありました。私の本職は外科なんですけど、胃や腸などいろんな手術をしてきましたが、やはり術後の回復にはタンパク質がどうしても必要です。今日は

ひたすら野菜の話しか出ませんでしたけど、みなさん充分にご存じだと思いますけど、タンパク質のことも忘れることなく、みなさん指導的立場の方でもありますので、タンパク質は無視するなということも言っていた方がいいんじゃないかとも思いました。

事務局（菅原）

ありがとうございました。

— 追加配布資料等の説明 —

川久保教授

先ほど松田さんの発表されたスライドで、服薬者の割合が増えていて、血圧と脂質と血糖に関して、服薬者の人数が増えて医療費も増えるというようなお話もありましたが、服薬者の割合が増えるというのは、一つは良いことだという面もあるんですよ。今まで放置していた人が薬を飲むようになって、きちんとコントロールできるようになったのは良い面なので、必ずしも服薬者が増えるというのは悪いことではないと思います。

それから医療費が増えるというのも、高齢者が増えれば医療費も増えてくるのは当然なので、私たちが長年、医療保険料を払ってきて必要な時に医療費を使うのは当たり前なので、医療費が増えるというのは、ある意味適正なことでもあると思うので、その辺のところをどういうふうに表現すればいいのか難しいのですが、皆さんにあまり医療費を使わないようにという訳にはいかないですね。必要な時には使いましょう。遠慮せずに使いましょうということも大事だと思います。ちょっと先程話に付け加えさせていただきます。

閉 会（健康福祉部長）

本日はお忙しいところご出席いただきまた貴重なご意見を賜り、また密度の濃い議論をしていただきありがとうございました。

川久保先生におかれましては遠路おいでいただき、貴重なアドバイス等をいただきました。

私なりの今日の感想を一言述べさせていただきますと、これからの保健事業は、今までとは、段々様相が異なってきているなというような感じを持っております。センスの良さですとか、或いはプラス思考、きちんとした戦略、戦術。まるで商社の新商品の開発のような、そういう感覚が我々にも求められているのかなとも感じます。それから、先ほどの川久保先生のお話の中で一番強く感じましたのは、事業のコンセプト、これを明確にする。そして事業を進めていく中で、このコンセプトについては決して忘れないようにするということが非常に大事だとも強く感じたところであります。

今日の皆さまの熱心な議論に感謝を申し上げまして、会を閉じさせていただきます。本日は本当に、ありがとうございました。